

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



ウサギの害から守るため、果樹園のアズには1本1本石灰と豚の血などを混ぜた忌避剤を塗る。

Contents

- 15年目の春に P 2
- ワーキングツアー合同同窓会を開催 P 2
- 植林5年後のモンゴリマツの生育状況 P 4
- 鉛が中国の子どもをおびやかす・2 P 4

2006.1

107

15年目の春に

高見 邦雄 (GEN事務局長)

緑の地球ネットワークが中国山西省大同市の農村で緑化協力を開始したのは1992年1月ですので、今年で15年目になります。その間にこの協力事業もいくらか前進しましたし、緑化をめぐる大同の環境も大きく変わってきました。今後、どのような方向をめざすべきか、少し考えてみました。

スタート時の困難を考えると、これまでの発展が現実のものとは思えないくらいです。中国の環境問題への認識が広がり、協力の必要さが理解され、たくさんのおみなさんの参加と協力のおかげです。

あわせて中国のなかでも、巨大な変化があり、環境にたいする意識も、政策も大きく変わりました。とくに大同は北京の水源であり、風砂の吹き出し口でもあることから、多くの環境プロジェクトが集中しています。国家クラスの重要プロジェクトだけでも、三北防護林、太行山緑化工程、北京天津地

区風砂源改善プロジェクト、首都水資源保護21世紀計画、退耕還林・退耕還草といったふうです。

そのようななかにあつて、私たちの協力プロジェクトは、たんに協力して植えているだけでなく、貴重なモデルになりつつあります。ここ数年、大同では緑化に関する全国、全省規模の会議が毎年のように開催されていますが、そのさいの現場視察・見学会には私たちが協力している村が選ばれるようになりました。

14年をかけて蓄積してきた技術や経験をさらに磨き上げ、広げていくことが、これからは重要になると思います。私たちのプロジェクトの大きな特徴は、日本の研究者、専門家の知恵と現地のベテラン技術者の経験がしっかり結びついたことだと思います。その支えとなった拠点、環境林センター、自然植物園、実験林場、白登苗圃などをしっかり維持管理することが重要だと思



大きな成果のひとつ、呉城郷のアズ (昨年夏)

ます。長期にわたつてそれを経済的にも保障する仕組みとして、具体的には白登苗圃の隣接地で果樹や有用植物の栽培に取り組みたいと思います。可能ならば今年度から着手します。

農村との密接な関係も、私たちの誇つていいものだと思います。小学校付属果樹園の建設がその保障となってきました。いくつものプロジェクトで、農村の人材育成と教育支援に具体的に役立つ段階を迎えています。

水問題をはじめ中国の環境問題は深刻化しています。両国間の関係改善のためにも、民間の環境協力はますます大きくなっています。みなさんの積極的な参加と協力をお願いいたします。

大同の思い出を共有

ワーキングツアー合同同窓会開催

八木 丈二 (GEN世話人)

11月26日、大阪市天王寺区の『南海飯店』で黄土高原ワーキングツアー合同同窓会をおこないました。

GENのツアー参加者だけでなく、イオンやサントリーの労働組合でツアーに参加された方にも来ていただいて、32人が集まりました。私を含め5人の幹事役は「目標30人」とっていたので、嬉しさ半分、安堵半分。よく集まていただきました。なかには東京や岡山から来られた方もあり、ワーキングツアーの最長老ともいべき石田和久

さん(’95以来毎年、13回参加)は中国旅行の帰途、関空から直接来てくださったり、感謝、感謝です。

会報に「黄土高原史話」を連載している谷口義介さんに乾杯の音頭をとっていただいて会はスタート。ツアーではお腹をこわす人が多いけれど、谷口さんの予防策は梅干なのだとか。

ツアーに参加した年次はバラバラで初対面の人も多いため、1分間で自己紹介。それぞれ短い言葉のなかにもツアーでの思い出が語られ、毎回なにかしらハプニングがつきもののツアーと、それに参加する人たちの面白さをあらためて感じました。そして、松島清さんの司会進行はお見事!

’01の春から7回ツアーに参加されている鉄人・石原務さんが、毎回撮影していたビデオを10分間に編

集したDVDの上映もしました。この5年の間にもずいぶん変化があり、着実に成果がでてきている様子や、日中双方の人たちの笑顔に、私もツアーに参加したときのことが鮮やかに思い出されました。私は’02春、’03夏、’05春と3回大同に行ったのですが、自分が植えたところがこれからどうなっていくのか、もうちょっと育ったところに、また大同に行きたいですね。

おいしい料理とお酒、スパイスの効いた話をいただいていると、時間はあっという間にすぎて、2時間半ほどで会はおひらきに。せっかくの機会なのに、ゆっくりお話しできなかった人もいたのは残念でした。

「今回はどうしても都合がつかなくて行けないけれど、次回は必ず参加します」といつてくださった人もありました。次回がどうなるかはともかく、こういった同窓会をはじめ、GENの仲間どうしの交流を増やしていけたらいいな、と思います。



年末カンパのお礼

ご協力ありがとうございました

昨年末にカンパの願いをしましたところ、多くのおみなさんからご協力をいただき、ありがとうございました。

この時期のカンパ総額は一昨年末の1.5倍を達成しました。また、新規会員になっていただいた方は18名でした。

昨年12月15日に自民党の平成18年度税制改正大綱が決定され、認定NPO法人制度について一部改正があり、今年4月から実施の見込みです。改正されると、寄付金についての税制の優遇がもう少し進むことになります。税が控除される寄付金は現行1万円以上から改正後は5千円以上になります。

現行（今年3月末まで）の認定NPO法では、

○個人の場合、「寄付金額-1万円」を所得金額から控除できます。つまりすでに支払った所得税から還付を受けることができます（確定申告の必要があります。限度額は所得額の30%です）。

○企業の場合、寄付金を損金として扱うことができます（一般の寄付金にかかわる損金算入限度額とは別に、それと同額の枠があります）。

○相続・遺贈による財産を寄付した場合、相続税の課税対象になりません（対象になるのは相続税の申告期限までに寄付されたものです）。

引き続き、カンパ等にご協力をお願いいたします。



GREEN なんでも勉強会

シベリアのタイガを訪ねて

報告

11月25日、弁天町市民学習センターでGREENなんでも勉強会『シベリアのタイガを訪ねて』が開かれました。15名が参加し、小川房人さんが04年7月に訪れた中央シベリアの貴重な写真スライドを見ながらお話を聞きました。倒木更新など自然環境の写真のほかに、村の家々を結ぶ暖房用のパイプなど生活のようすがうかがえる写真もあり、興味深く見ることができました。

不法伐採や森林火災、異常気象などで危機にさらされているタイガ地帯の森林はたいへんもろく、ひとたび破壊されると再び緑にするのは容易なことではありません。スライドを見た後、1時間近くも質疑応答がつづきました。タイガのことにとどまらず、黄土高原の植生や砂漠緑化についてなど、熱のこもったやりとりがかわされました。

(東川)

訃報

2000年春以来、大同での協力活動に参加し、強力に支持してこられた林野庁OBの相馬昭男さんが2006年1月1日、脳梗塞のために逝去されました。「この協力事業のすごいところは、大地に木を植えるだけでなく、人の心に木を植えていることです」といった味のあふる解説を覚えているワーキングツアー参加者もおられると思います。心から冥福をお祈りいたします。



いますぐできる GEN への協力

◆会員になってください！

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になってGENの活動をささえてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをすすめてください。

◆カササギの森に参加してください！

1ha分5万円を1口として寄付を募っています。落葉広葉樹や花木も植えられ、多様な展開をみせる実験林場“カササギの森”、来年度いっぱい植え終わる目処がつかしました。参加するなら、いまのうちです！

◆緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。みなさんの応援をお願いします。

◆ビデオ『よみがえる森』ご購入を！

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの活動紹介を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員は4,000円（送料別途）です。教材にも好適。小学校高学年から。

◆絵はがき『中国・黄土高原』

橋本紘二さんの写真で製作しました。『春』『夏』『秋』『冬』『緑化』の4種類、それぞれカラー8枚組、1セット（8枚）300円（送料別途）です。

◆書き損じはがきを集めています

（書き損じ年賀はがき大歓迎！）

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。あまったり書き損じた年賀はがきをご家庭にあれば、ぜひお送りください。お待ちしております！

◆商品券などをお寄せください

ご家庭で眠っていて使うあてのない図書券、文具券、各種商品券がありましたらお送りください。

◆ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

◆出版物を購入してください

『はくらの村にアンズが実った-中国緑化協力の10年』高見邦雄著/日本経済新聞社/本体価格1,600円（GENでは1,600円+送料で取り扱っています）

『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』橋本紘二写真集/東方出版/本体価格6,000円（GENでは送料込み6,000円で取り扱っています）

※ご注文はGEN事務所まで。

植林 5 年後のモンゴリマツの生育状況

— 采涼山植林地の現場から —

遠田 宏 (GEN 顧問・元東北大学理学部附属植物園園長)

采涼山植林地はカササギの森へとバスで登ってゆく途中に左右に広がる植林地です。バスを停めて現状の説明をしたこともありますからご承知の方も多と思います。標高は約 1,300m。ここでの植林は 2000 年の春で、地上部が 15cm 前後の 2 年生の苗を荒野に植えたわけですから、「本当にこの苗が育つんですか?」と不安に思う人も多かったはず。等高線に沿って 3m 間隔に掘られた水平溝にそって 1m 間隔で苗を植えましたから 1ha 当たり 3,300 本の密度になります。この苗がその後どのように成長したか、昨年 8 月にセンターの技術者たちといっしょに調査しました。

2 本の水平溝を選びそれぞれ 100m、計 200m に植えた 200 本の苗それぞれについて過去 5 年にさかのぼって毎年の樹幹の伸長量を測りました。植えられた 200 本のうち、枯死していたもの 36 本 (18.0%)、生育障害樹 10 本 (5.0%) で、後者は主として樹幹先端枯れによる変形樹で、下部の枝が樹幹として復活してくる可能性があります。

これらを除く 154 本についての樹高は 40cm 台から 150cm 台まで大小さまざまで、平均樹高は 94.6cm でした。

その樹高階別の分布を図 1 に示しました。参考までに 2004 年夏の樹高の分布も図 1 に示しましたが、20cm 台から 100cm 台であり平均樹高は 65.8cm でした。

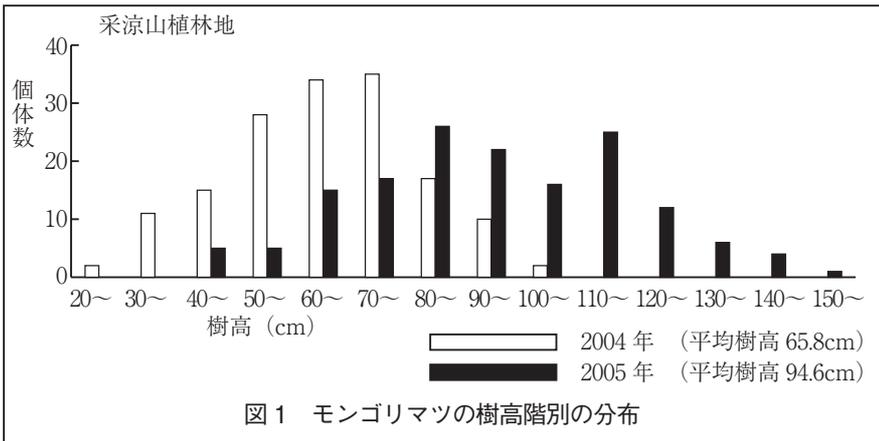


図 1 モンゴリマツの樹高階別の分布

た。05 年 1 年で大きく伸長したことがわかります。ちなみに樹幹の伸長は 4 月下旬から 7 月はじめぐらいまでです。05 年春のツアーでこられた方は 04 年の平均樹高 65.8cm のマツを見学したことになります。図 2 は 154 個体それぞれにつき毎年の樹幹伸長量を測定し最高、最低、平均を示したのですが、年間伸長量が年々増大してゆくとわかります。とはいえ最高と最低の差も大きく、個体差の大きいこともわかります。この調子で 06 年も伸びれば平均で 40cm ぐらいの伸長が期待されますが、伸長量は前年の 9~12 月の雨量に大きく左右されますので保証の限りではありません。

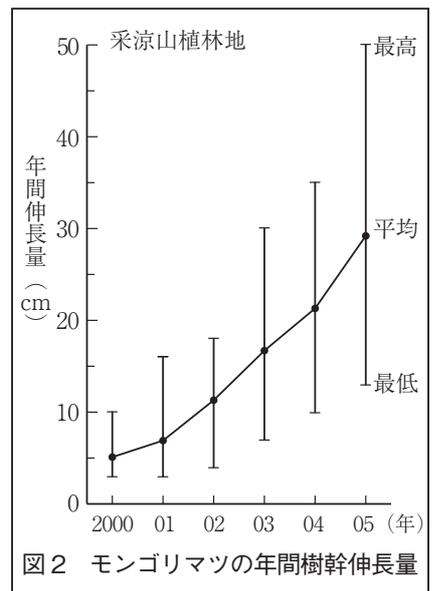


図 2 モンゴリマツの年間樹幹伸長量

鉛が中国の子どもをおびやかす・2

茂田 井 円 (GEN 関東ブランチ)

のど元過ぎれば……、の日本

前回、血中鉛の中国での上限値が 99 $\mu\text{g}/\text{l}$ 、日本は 40 $\mu\text{g}/\text{dl}$ で日本の方が規制は厳しいと書いた。その後、読者の方から中国は 9.9 $\mu\text{g}/\text{dl}$ となり文章の趣旨と異なるとの指摘をいただいた。(すみません。単位変換が違っていました。ご指摘ありがとうございます。)

改めて調べてみると世界保健機関 (WHO) が安全とする基準値は 10 $\mu\text{g}/\text{dl}$ で、中国はこれに準じている。ところが日本では上限値の目安として 40

$\mu\text{g}/\text{dl}$ という日本産業衛生学会が生物学的許容値とする数値があるだけ。しかも一般人への大規模な測定は高度経済成長を過ぎたころから、ほとんどおこなわれていない。

自動車の排ガス中の鉛による健康障害で大規模な調査がおこなわれたのは東京都新宿区牛込柳町だ。1970 年に民間団体が集団検診したところ、多くが鉛中毒と診断され、新聞沙汰となった。これを受けて翌年にかけて、東京都立衛生研究所がのべ 2,000 人以上に再調

査をおこない、鉛患者は 1 名もいない、ということで事態は収束された。その最高値は 36 $\mu\text{g}/\text{dl}$ 、平均 10 $\mu\text{g}/\text{dl}$ \pm 5.9。確かに日本の上限値以下ではあるが、他国では不眠や痙攣などが出ると報告されているレベルである。

健康安全研究センター (旧東京都立衛生研究所) に問い合わせたところ、当時の担当者に話を聞くことができた。基準値については「住んでいる地域や環境によって変わってきます。40 $\mu\text{g}/\text{dl}$ 以上の数値で発症しない人もいますし、なんともいえません」とのこと。さらに「鉛問題は欧米では敏感な問題ですね。もはや日本では終わってしまった話として片づけられてし (ノ)



(ア)まった。

問題は、日本では子どもに対する大規模な調査がないことと、基準値が相当甘いということである。中国では鉛中毒について国が積極的に規制している。この姿勢の違いは大きい。

水道管の鉛

有鉛ガソリンによる汚染ほどではないが、日本にも今なお鉛汚染は存在する。ゴミ焼却灰やたばこの煙、一部の陶磁器の釉薬、それに水道管などだ。以前に水道に敷設された鉛管は、いまなお残っており、朝一番の水などに鉛が溶けだしていることがある。WHOの飲用水の水質基準では鉛濃度は0.01mg/l以下。日本では92年12月に従来0.1から0.05へととりあえず厳しくし、つい最近の2003年によややく

WHO並みとなった。そうしないと水道業者が財政的に間に合わず、新たな基準を達成できないためだという。

わが家も古いので不安になって市水道局に電話してみると、すぐに家の水道管の材質を教えてください。「住民への基本情報」だそうなので、心配な方は電話をするとよい。ただし鉛管からステンレス管への取り替え費用は、引き込み線については個人負担となる。

キレやすい子どもにも

鉛中毒は重症になると貧血となり、手の麻痺、腹痛、脳障害などの症状がでる。低量でもその影響は大きく、とくに子どもには深刻だ。1989年、スコットランドでの子どもへの調査では注意欠陥による衝動的暴力傾向が見られる児童の鉛レベルは平均10.4 μg/dlだっ

た、という報告がある。また異論もあるようだが、1993年のアメリカ小児科アカデミーの研究によると、血中鉛濃度が10 μg/dl増加するごとに、子どもの知能指数が5程度ずつ低下するという。いまや環境ホルモンなど様々な問題があふれている中で鉛だけが問題とも思えないが、考えさせられる報告である。今回、対岸の火事として調べはじめた鉛中毒の問題が、じつは「キレやすい子」など昨今の問題に大きく関わっているかもしれないと知り、影響の大きさにポー然とした。

植物屋のこぼれ話 (続編) その7

立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

北米の砂漠の樹木

先号で中国北部の砂漠の樹木を紹介したので今回は北米の樹木を書いてみよう。北アメリカといってもずいぶん広いがカリフォルニアからニューメキシコ、グレートベシンの地域は砂漠または準砂漠地帯で、山の上の方はけっこう寒い。

●気候・風土

これらの地域は年間の降水量が150mm以下であり、もっともよく降る地域でも500mmであるから、われわれが植樹している中国の大同付近よりもはるかに少ない。土質は大部分がアルカリ土でpH8～11内外、風で壊された砂、砂嵐によって堆積した微塵は凹んだ地形ではかなり深い岩石の露出した部分もある。

●植生

乾性植物 葉が小さく減少、または脱落し、タップルート(直根)が発達する。

①クレオソート・ブッシュ(ハマビシ科) 砂嵐や竜巻で種子が散布され、発芽すると地中深く直根が発達し、地表近くに細根を出す。西部劇で嵐にころころ転がる場面が映されることがある。葉は小さく1cmもない。ワニス状物質で

覆われクレオソートのような匂いがある。

②パロ・ベルデツリー(マメ科) 高さ3～4mになる亜高木で、葉は全くなり、枝、幹は緑色でおもに枝で光合成をおこなう。クロロフィールは樹皮の下にある。

③パートリッジ・ティー(マメ科)、④アメリカテツボク(マメ科)、⑤メソキート(マメ科)、⑥デザート・アカシア(マメ科)。これらのマメ科樹木は深く直根をおろし、葉は半分以上が刺となって、残った葉は小さく、雨が降ったときだけ葉があり、通常、葉を全部落とす。

⑦タマリスク(ギョリュウ科) 2種あるが中東からの帰化植物である。水分があると思われる場所にはギョリュウが生えていて、大同のカササギの森と似ている。

中生植物 年間300mmの雨しかないが、川のそばやアンダー・ストリーム(地下の流れ)に育つものでヤナギ科の植物があるのも中国北部に似ている。

ワタノキ・ポプラ、デザート・ヤナギ、グッディング・ヤナギ、スモーク・ツリー(マメ科)、ワンシード・ジュニパー(ヒノキ科)、中国の真柏に似たものなどが



北米グレート・ベシンの砂漠

倒木はタマリクス、遠くの灌木はクレオソート・ブッシュ

ある。

塩生植物 砂漠の中の過去の湖が干上がった場所でアルカリ抵抗性種としてわずかにアカザ科の植物が生えている。前号で紹介した中国の梭梭もアカザ科という共通点があり、また日本の昔の製塩場に生えるハマアカザもまたアカザ科である点がおもしろい。アカザ科の野菜であるハウレンソウやサトウダイコンが土に石灰をいれてアルカリ化させるとよく育った経験がある。アカザ科の植物をもっと研究する必要があると思う。

多肉植物 このほかに、ユッカ、アガベ、サボテンなどがあるが、これらは凍結には弱いから大同付近には縁がないだろう。樹木類では育つものがあるかもしれないが、冬季マイナス2～3℃程度なので耐寒性が弱くて中国北部ではむりだろうと思う。

黄土高原史話〈28〉

「墳を築かず、山川を損なわず」

谷口 義介 (摂南大学教授)

私事ながら40まで考古学の現場工作者をしていたので、よく「穴掘り」と言われたことが。10年ほど前、上海である人から専門を問われ、面倒くさいので「考古学」と答えたら、「ああ、墓掘り」と納得した様子。もちろん祖先を大切にす中国のこととして、墓掘りに好いイメージはありません。

その中国、学術的な考古調査の成果は世界を瞠目させていますが、一方で「カネが欲しけりゃ、墓を掘れ」とばかり、いまや空前の盗掘ブーム。最近数年間で10万件を超え、被害に遭った古墓は王墓クラスを含め20万箇所とか。盗掘品の大半が海外に流れるため、「文物輸出大国」という汚名すら。

黄土高原の南東部に位置する河南省三門峡市に、西周～春秋期の諸侯の墓地32万平方メートル、大・小800基とも。盗掘に成功したのは、山西・河南連合チーム。目指す墓の近くに農薬生産名義で倉庫を建て、床下から10メートルの縦穴と290メートルの横穴を掘り、貴族墓3基から青銅器や玉器など200点を盗み出した。ただし分け前をめぐるトラブルから一網打尽、主犯2人は死刑、と(「朝日」05年1月12日夕刊)。

王子今氏の『中国盗墓史——一種社会現象的文化考察——』はマジメな本ですが、発掘報告書より格段に面白い。

秦の始皇帝の墓、いわゆる驪山陵。墳丘は、底部で東西345×南北350メートル、現高76メートル。その下に巨大な地下宮殿あり。『史記』秦始皇本紀によれば、あらかじめ機械仕掛けの弓矢をセット、盗掘者が財宝を狙って近づくと、発射するようにしておいた、と。さらに、父を埋葬した二世皇帝は、墓内の様子を知っている工匠は盗掘の可能性ありとして、中に閉じ込めて殺してしまった、と。

しかし、北魏の書『水経注』に次なる記述あり。始皇帝の死後4年目、

「項羽、関に入りてこれ〔驪山陵〕を發き、三十万もて三十日物を運ぶも窮

むる能わず」

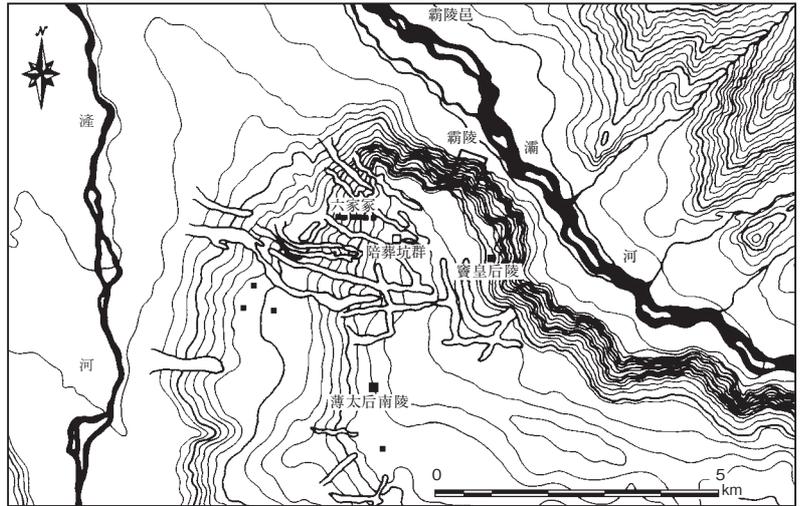
財宝は項羽の軍隊30万人が30日ばかりで略奪しても、まだ運び切れなかった、というのです。

ところで、前回述べた前漢屈指の名君文帝。B.C.157年、未央宮で薨じますが、「厚葬は民の生活を苦しめるだけ」と、生前から自分の陵墓はよりよ覇陵には墳丘を築かず、周囲の山川を損

なつてはならない、と下命。自然の丘陵の斜面を利用して、崖墓という横穴式の墓を造りました。

ちなみに、前漢最大の皇帝陵は武帝の茂陵で、230×230メートルの正方形、高さ46.5メートル。前漢末の赤眉の乱のとき、賊によって略奪されますが、数十日かけて財宝の半分も持ち出せなかった、と。

文帝の霸陵は、過去に盗掘されたという記録はありません。



霸陵陵域地形図

ゆめの人 この人

平山 豊さん (弘前市)



以下1、2、3と歩み、今春「黄土高原ワーキングツアー」に参加します。

1. 事前学習もなく、60才台湾留学。講義が中国語で、何頁をやっているかさえわからない。学習歴のある方々は余裕だ！ あえぐ一方で、日本語を週2回3か月教えた。週末好きな登山で遊んだ。半年経て帰る頃、驚くほど中国語が話せないのがっかり。

2. 「アジア冬季大会2003青森」、中国語ボランティアを志望。語学レベル

チェックA～F段階のD初級。それでも岩木バイアスロン会場中国選手団(男女14名)をエスコートした。ボランティア総日数19日中、私の業務は飛び飛びの7日間。自身の体験を10頁にまとめ、語学ボランティア20数人から珠玉の現場レポートをいただき、体験記B5版64頁を手作り、青森県立図書館、市立図書館等に贈呈した。かつて国内オリンピック、ユニバシアード等JOCイベントで、現場体験記が作られたことはない。個人情報なく、中継に過ぎないボランティアにできるはずがないし、組織委員会が業務外を扱うはずもない。信じられますか？ “D初級”のボランティアの仕事ぶりを!! 次期JOCイベント開催の段、この誌にブレイクはあるか?!

3. 中国語教室のボランティア事務。弘前公園観光ボランティアガイド：公園本丸から岩木山を望み、白神山地の遠望を案内しています。

GEN 自然と親しむ会

樹形と冬芽の観察会

1年でもっとも寒い1月下旬、落葉樹はすっかり葉を落として、樹形をくっきりと見せてくれます。春の準備の冬芽も見られます。寒い時期の植物の様子を観察してみましょう。温室の花も楽しみです。

- 日時：2006年1月29日（日）午前10時30分～午後2時半頃まで
 - 場所：大阪府立花の文化園（河内長野市高向2292-1 TEL.0721-63-8739 南海高野線または近鉄長野線「河内長野」駅からバス10分）
 - 講師：前中久行さん（大阪府立大学教授・緑地植物学）
 - 集合：午前10時30分に花の文化園入口
 - 参加費：一般500円、中学生以下200円（保険料を含む、入場料別）
 - 定員：30名
 - 申し込み：1月25日（水）までに緑の地球ネットワークまで。
- ※小雨実施。昼食は弁当持参または園内にレストランもあります。

第2回

伊豆合宿のご案内

2002年12月に実施して、参加者一同おおいに楽しんだ伊豆合宿。第2回は、晩春の伊豆を満喫できそうです。

- 日時：2006年4月22日（土）～23日（日）
- 宿泊場所：静岡県立土肥高等学校生活館「輝潮館」（静岡県伊豆市土肥870の1）

- 申込み締切：3月31日
 - 経費：4,000円
 - ※宿舎は男女それぞれ20名程度まで宿泊可能です。宿泊等に余裕がありますので、GEN会員以外の希望者も誘ってください。
 - ※フィールドワークが主体なため、近くの人は車で参加をお願いします。
 - 問合せ・申込みは下記まで。
- 提案者：藤原國雄（〒410-3501 静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須153の3）
E-mail：kunio@mail.wbs.ne.jp tel. 0558-55-0530

【詳細な日程】

- 4月22日（土）
13時 狩野川公園集合（車の場合三島から136号線に入って約30分。電車の場合三島から伊豆箱根鉄道駿豆線で約25分大仁駅で下車。徒歩10分）狩野川公園から車に分乗し、
- ・駿河湾沿いに見える富士山の眺望を堪能。
 - ・笹を極相林とする達磨山を散策。
 - ・フォッサマグナ要素の代表的な植物のコメツツジとアセビが一面に咲く風景を観察。
 - ・仁科峠から笹に覆われた山に登山、土肥高生活館に到着・夕食準備・入浴（土肥高の温泉・土肥町の元湯源泉）
 - ・海の幸を堪能する夕食
 - ・希望者は元湯温泉巡り（町内5ヶ所あり。350円程度）
- 4月23日（日）
- ・朝食後、天城山に向かい樹齢400年の古木（太郎杉）の観察
 - ・その後湯ヶ島から峠を抜けて前回も訪れた筏場の大ワサビ田の観察
 - ・その後、前回いけなかったコピサワ

ラ原生林へのトレッキング

・遅めの昼食を食べて解散

少し欲張りでしたが、充分可能なコースだと思います。雨天の場合は臨機応変に対応します。

森や樹が大地に果たす役割を堪能できるコース設定です。自然に興味・関心のある方のご参加を待っています。

（藤原國雄）

本の紹介

『ほくらの村にアンズが実った』を中国語に翻訳した李建華さんと、夫人の楊晶さんから、次のような出版の案内をいただきました。出版社の紹介によれば「中国の司馬遼太郎」・余秋雨氏の著書を日本語に翻訳したものです。

* * * * *

中国と世界の文明をじっくり考えた中国の文人余秋雨の『余秋雨の文化苦旅』『余秋雨の千年一嘆』をこの度、拙訳で阿部出版から出しました。なにかの折、お目に止まることがあれば嬉しいです。グラフィックデザイナー杉浦康平先生によるデザイン・装丁は大変好評です。

余秋雨氏はここ十数年、人気不衰に読まれ続けてきました。やはり中国文化と人類文明をとらえる彼の視角が深い洞察に富んでおり、読むものに多くの示唆を与えるからだと思います。慌しく能率・効率ばかりが強調される世の中に、人間社会の文化と文明の意義を、中国文化人の視角から読み直したら何か変わるかもしれません。

『余秋雨の文化苦旅』余秋雨著／楊晶訳
『余秋雨の千年一嘆』余秋雨著／楊晶他訳／阿部出版／各2,940円（税込）

2006 春の黄土高原ワーキングツアーのご案内

大同の春はGENのワーキングツアーから。霊丘自然植物園など大同市南部をまわります。村の人たち、子どもたちとの植樹・交流やホームステイなど、GENのワーキングツアーならではの体験を満喫してください。

今春はいつになく早い時期から参加申込みが届いています。参加をお考えの方は、早めにGEN事務所までご連絡を。

- 日程：2006年3月25日（土）～4月1日（土）7泊8日
- 費用：一般＝175,000円、学生＝165,000円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、空港使用料、GEN

年会費を含む。個人行動時の費用、旅券取得費用は含まない）※中国国際航空利用 ※関西空港発着 ※成田便利用の場合、航空運賃の差額23,000円が別途必要です）

- 訪問先：中国山西省大同市（北京経由）
- 定員：30名
- 申込み締切：2月15日（ただし、定員に達し次第締め切ります）
- 問合せ・申込み：GEN事務所までご連絡ください。応募書類を郵送します。

情報ひろば 
 いろんなかたち

語ろうかい

「里山よ。元気を出してくれ。」
 日本一の里山を未来に伝えるために
 生活の変化や高齢化・過疎化によっ
 て荒廃がすすむ里山。そんななかで、
 茶道につかう「菊炭」の生産地である
 猪名川上流の里山は、森林ボランティ
 アの力を借りて、かろうじて本来の姿
 を保っています。この日本一の里山に
 元気を取り戻す方法を、みんなで考え
 ましょう。

- 日時：2006年2月4日（土）13時～17時（開場12時30分）
- 会場：アステホール（tel. 072-755-2010 阪急川西能勢口駅下車すぐ）
- 参加費：無料
- 主催：NPO法人 ひょうご森の倶楽部（〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-1-11 山手ユージハウス201号 tel.&fax. 078-321-0049 E-mail: moriclub@pearl.ocn.ne.jp URL http://www.hyogo-moriclub.sakura.ne.jp）
- 共催：環境省／人と自然の博物館

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
 *当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

●内容

【講演】

岩槻邦男さん（人と自然の博物館館長）
 服部保さん（兵庫県立大学教授）

【パネルディスカッション】

コーディネーター 服部保さん
 パネリスト 岩槻邦男さん／今西勝さん（菊炭生産者）／福田正さん（ひょうご森の倶楽部副会長）／竹内宗芳さん（表千家教授）／角正美雪さん（伊丹昆虫館学芸研究員）

- 申込み：1月20日までにNPO法人ひょうご森の倶楽部まで、「語ろうかい参加希望」と氏名／郵便番号／住所／電話番号を記入してはがき、FAX.またはメールで。先着300名。

六甲奨学基金のための
 第9回古本市

ご家庭にたまった古本を、兵庫県下で学ぶアジアからの留学生・就学生のための奨学基金に役立てませんか。

- 受付期間：3月1日～31日（必着）

- 送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付

【注意】

- ・読む人の立場になって、汚れ・破れのひどいものはご遠慮ください。
- ・辞書大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
- ・雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、百科事典などは不可。
- ・お送りいただいた本はお返しできません。価格設定はおまかせください。

【古本市ボランティア募集】

陳列・整理のボランティア。交通費片道500円まで支給。可能な日にち・時間を下記まで郵便、fax、メールで。

- 送り先・問合せ先
 (財)神戸学生青年センター古本市係
 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1
 tel. 078-851-2760 fax. 078-821-5878
 e-mail: info@ksyc.jp URL http://www.ksyc.jp

- ★六甲奨学基金のための第9回古本市
- 3月15日～5月15日まで毎日開催
 9時～22時